

トルコ金融政策（2020年10月）

政策金利は据え置きだが、実質的には大幅な金融引き締め効果に

2020年10月23日

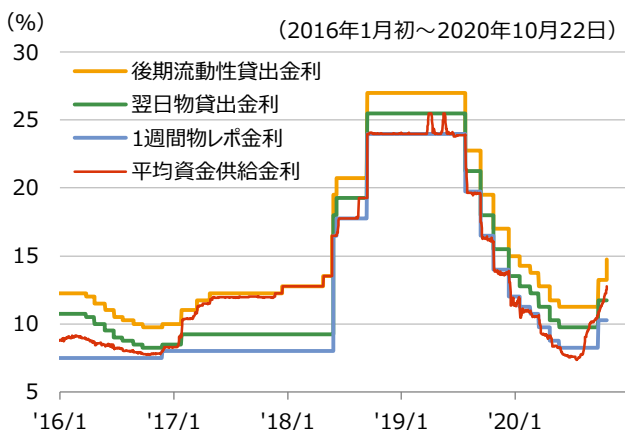
通貨安に歯止めをかけるためには更なる大幅利上げが必要

トルコ中央銀行は10月22日（現地）、政策金利（1週間物レポ金利）を10.25%に据え置くと発表しました。前回9月に2.00%ポイントの大幅な利上げが決定されましたが、その後も通貨安は止まらず、市場参加者の間では今会合でも大幅な利上げが決定されるとの見方が主流でした（ブルームバーグ集計の市場予想は1.75%ポイントの利上げ）。トルコ・リラは、利上げ期待を背景に先週末から堅調に推移してきましたが、政策金利据え置きを受けて急落し、対円・対米ドルで一時史上最安値を更新しました。

一方、同時に後期流動性貸出金利と翌日物貸出金利の差を1.50%ポイントから3.00%ポイントにすると発表しており、これは後期流動性貸出金利が13.25%から14.75%に引き上げられることを意味します。そもそも、中央銀行が市中銀行に資金を供給した際の金利である平均資金供給金利は、足元で翌日物貸出金利と後期流動性貸出金利の間で推移しており、表向きの政策金利である1週間物レポ金利は意味をなしていない状態です。今後、翌日物貸出枠を絞ることで平均資金供給金利を後期流動性貸出金利に誘導すれば、実質的には大幅な金融引き締め効果をもたらすと考えられます。

目先は、トルコ中央銀行による更なる情報発信と平均資金供給金利の変動を注視する必要がありますが、このような不明瞭な政策が一般に受け入れられ、通貨安に歯止めをかけることになるかは疑問が残ります。当社では、経常赤字の継続とインフレ率の更なる加速を見込んでおり、これらがトルコ・リラに下落圧力をかけることで、数カ月以内には明示的な利上げが必要になると想定しています。

各種金利の推移



※平均資金供給金利は、トルコ中央銀行が市中銀行に供給した資金の金利をその金額で加重平均したものの。

(出所) ブルームバーグ

トルコ・リラ（対円、対米ドル）の推移



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。